

教科等研究会（中学校英語部会）
平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージ化を図り、確実な定着をはぐくむ英語指導の工夫
～視聴覚資料や学習シートの効果的な活用～

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期日 5月25日（木） 人数 21人 場所 木山中学校	期日 8月1日（火） 場所 木山中学校 内容 研修会	期日 10月26日（木） 場所 益城中学校 授業者 田上裕登教諭	期日 1月26日（金） 場所 嘉島中学校 授業者 福島亜矢教諭

3 研究の概要

（1） 研究の内容

今年度も「イメージ化を図り、確実な定着をはぐくむ英語指導の工夫 ～視聴覚資料や学習シートの効果的な活用～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第1回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

② 第2回教科等研究会

昨年度は熊本地震の影響で実施できなかった小中合同研修会だったが、今年度は実施できた。講師として西合志第一小学校の末次佐代子校長先生をお招きし、「英語教育における小中連携」の在り方や、新学習指導要領の改訂内容等、講話をいただいた。講話の後、小中学校の会員は、それぞれ中学校校区に分かれ、個人・学校の取組の内容や授業実践、課題や悩みなどを出し合い、協議を深めていった。午後は中学校部会で、学年部会に分かれ研究授業について事前研究会を行った。

③ 第3回教科等研究会

益城中学校の第3学年で授業研究会を行った。3年生ということで、読み物教材を扱う中で、これまでに生徒が学んできた学習方法や、4つの領域を統合した授業実践を参観することができ、その後研究会では、多くの質問や活発な意見が出され、有意義な会となった。 ※詳細は、4実践事例にて紹介

④ 第4回教科等研究会

嘉島中学校の第1学年で授業研究会を行った。T1、T2、ALLTの3人による研究授業は、学習訓練がしっかりされており、テンポよく授業が進んでいき、生徒が発話する機会が非常に多く設定された授業であった。



夏季研修会（講話）



中学校区毎の協議

（2） 成果と課題

- 上益城郡教科等研究会の全体研究テーマに沿って、生徒が「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを意識した授業の工夫や指導の工夫がしっかりと見られた。
- 部会事前研究会をしっかりと行って、授業の中身（指導案）を検討したり、教材（視聴覚教材、ワークシート）を考えたりすることは、授業者だけでなく、会員でたくさんを共有できるので、自分の授業実践や改善に生かすことができ、大変有効である。
- 小学校での英語教育が本格化していく中で、「小中連携」は非常に欠かせないものであり、小中部会合同の夏季研修会は大変有意義な会となった。特に「小中連携の前に、小小連携をしっかりとすることが大事」、「小学校、中学校がそれぞれどんなことをやっているのか、互いに情報を共有したり、小中学校の英語学習を通して、児童生徒につけたい目標を共有したりするなど、小中連携の機会をしっかりとつとめることが大切」ということを講話いただいた、小学校と中学校の会員で確認できたことはよかった。

また、小中連携をしっかりと取り組んでいる嘉島町の取組を聞くことができたことも、大変よかった。

- 小中連携をどのようにして取り組んでいくのか、具体的に協議していかなければならない。
- 年4回の教科等研究会の中で、2回の研究授業発表と授業研究会を行っている。組織は学年部会で作るため、1学年だけ実施できない部会が出てくる。
- 新学習指導要領について、個人でしっかりと読んで理解していくことも大事だが、部会としても内容に触れながら、今後の研究をどのように行っていくのかを考えていかなければならない。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第3学年「PROGRAM 9」の単元は、実在の人物で、2014年にノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイさんに関する伝記を扱った読み物教材である。部会の中で、読み物教材をどのように授業で扱っていくかが議論として挙がった。読み物教材は、本文を読んでその後日本語訳を行い、内容を理解する、といった単調な学習になりがちなどがある。そのため、「読むこと」から「書くこと」「話すこと」にまで展開できることを目標にした授業を意識した。

まず、研究授業の前に行われた学習発表会のテーマ「繋ぐ」に関連させ、後輩に学習内容を「繋ぐ」ことを意識した導入を行い生徒に学習のねらいを提示したり、これからの学習に関心を持たせたりした。

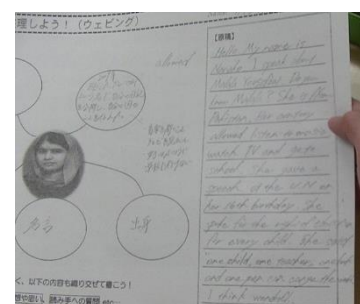
これまでの取組で、授業者は「読むこと」から、「書くこと」、「話すこと」への活動に広げていくために、ウェビングやリテリングを行うよう意識した。生徒が書きたい、話したいと思う内容を、相手に伝わるように英文を構成する力を身につけさせるためである。その訓練を継続して行った。研究授業時には、ワークシートの工夫改善を行い、生徒は意欲的に情報を整理し、文の構成を考えて書いたり、前で発表したりすることができた。



授業導入の様子



イメージ化を図る板書の工夫



生徒のワークシート

【授業研究会から】

① 自評

リーディングの延長でマララさんの紹介文を書くという作業を行った。書くにあたって、こういった手順で行うか悩んだ。これまでの経験から、モデルや型を提示することが効果的だと判断し、今日のような授業に至った。書く作業を中心として授業は改善の余地がまだある。

② 質疑

◇ どうしてこの単元を（研究授業で）しようと思ったのか。

- ・ 部会で読み物教材にフォーカスした授業内容作りが提案されたこともあるし、どのように扱っていくのが生徒に効果的か迷いがあったので、挑戦してみた。

◇ 前時までの内容読み取りまではどのような活動をしたのか。

- ・ 新出単語、リスニング、音読という流れで授業を行った。一斉音読から穴あきシートでどんどん音読する活動を行った。

◇ リーディングの後、どのようなライティング活動を行ってきたか。

- ・ PROGRAM 4でリテリングを行った。その際、こういったことを付け加えると文章を書けるようになる、という指導を行った。またライティングのための表現集を使っている。

③ 協議

◇ リーディングの能力を高めるためには。

- ・ 少人数のグループに分かれワークショップを行った後、班別協議を行い、各グループから代表が出された考えや意見を発表し、全体で共有した。



紹介文を発表する生徒

(2) 学習指導案

第3学年1組 英語科 学習指導案

日 時 平成29年10月26日(木) 第5校時
場 所 益城中学校 3年1組教室
指導者 教諭 田上裕登

1 単元名 PROGRAM9 Education First: Malala's Story (SUNSHINE English Course 3)

2 単元について

(1) 単元観

これまでの指導では主に「話すこと」に重きを置いて指導してきた。特に即興的な英語で自分の考えや事実、集めた情報などを聞き手に伝えることは、中学校3年間の最終的な目標として取り組んできた。これまで即興的な発話につながるための手立てを工夫してきたが、部分的に達成できる場面はあったものの、発話全体を即興で組み立てられるかという点、そこには大きな壁があった。その原因として考えたのが、発話する文の構成力不足という点である。まとまりのある内容の文を作るための視点の一つである構成する力をつけるために、文の構成を意識させて「書くこと」の練習場面を設定し、繰り返し取り組ませることが有効であると考えた。

本単元 PROGRAM9 は、実在の人物で2014年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんに関する伝記である。この題材を通して、世界の子どものための教育の現状、教育の重要性、男女平等、自他の敬愛の大切さを学ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが出来る。本文は各セクション約90語から成っている。新出語句が多い英文であるが、限られた時間でまとまった分量を読み取ることをねらいとしている。そこで本単元では、先日行われた学習発表会のテーマである「繋ぐ」を意識し、マララさんに関する紹介文を書き、それらをまとめたガイドブックを作り、今後マララさんについて学習していく後輩たちへ贈るという活動に取り組む。文全体の構成を意識してまとまりのある内容を書く練習を仕組むことで、「話すこと」の力の醸成にもつながると考えた。

(2) 指導観

本学年の生徒は小学校で本格的な外国語活動を経験していないが、学びたい態度・自分を向上させたいという態度が見受けられる。生徒が間違いを恐れずに積極的に英語で活動に取り組むためには、英語を使う必然性を設定し、自然に英語を使う状況設定の工夫が不可欠となる。そこで、中学校の最上級生として、学習発表会のテーマである「繋ぐ」と関連させ、マララさんに関する紹介ガイドブックを後輩に向けて作るという活動を設定し、自然な状況設定のもとで、英語を使って紹介文を書く活動に取り組めるようにしたい。

ガイドブックを作成するためのマララさんの紹介文にふさわしい構成や内容とはどのようなものなのかを吟味させるために、生徒に期待する紹介文のモデルを提示する。モデルの吟味を通して、今回の目的や状況にあった紹介文としてふさわしい構成、内容について考えさせ、目指す紹介文に必要とされるポイントを生徒の声を活かしながら黒板に整理していく。教師が用意した正解を一方的に押しつけるのではなく、生徒自身の実感や生徒同士の話し合いの中から生まれたアイディアを活かしながら考えを整理する作業を通して、生徒にとってより身近な、自分たちで導き出した紹介文ができる。こうしてまとめられたものを全体で共有することで、紹介文を書く際の大きな拠り所となる。

この単元ではマララさんに関する英文を読み、自分の考えや聴衆への質問等を織り交ぜながら論理的な英文を書くことを目指したい。英語はコミュニケーションの手段であることから、新出・既習表現を活用しながら、自分の思いを英語で伝え、基礎的な学力の定着と仲間との交流の楽しさを生徒に実感させる授業を展開していきたい。

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ① マララさんの人生をたどりながら、彼女の生き方・考え方がどのように変化していったのかを理解させる。
- ② マララさんのスピーチから、彼女がその言葉に込めた思いを考えさせるとともに、彼女の人生を英語でまとめさせる。
- ③ マララさんのガイドブックを作る過程で、読み手に伝わりやすい論理的な英文を書かせる。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

目的や読み手のことを考え、マララさんに関する紹介文をつながりのある英文で書くことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動【学習形態】	○主な発問及び指示 ●予想される生徒の反応	○指導上の留意点と評価	備考
----	------------	--------------------------	-------------	----

導入 7分	1 Review 今までの学習の振り返りを行う。【一斉】	○Where is she from? ●She is from Pakistan.	○Program9 を振り返る問答をテンポよく行い、本時の学習につなげる。	モニター
	2 目標をつかむ。 教師の話聞き、本時の学習のねらいを把握する。【一斉】	●学習発表会のテーマは「繋ぐ」だったから、後輩に関係する活動をするのかな。	○「後輩に贈るため」という、本時の活動の目的をはっきりさせる。	
展開 40分	3 適切な紹介文とはどのようなものかを考える。 (1)紹介文の目的や読み手などを整理する。【一斉】	○紹介文は誰あてに書きますか。また、目的は何ですか。 ●後輩。来年勉強する前にマララさんのことを知ってもらうため。	○目的、読み手を明確にし、常に意識できるよう、生徒の声を整理して板書する。	メニューボード
	めあて：マララさんの紹介文をクラスでまとめ、後輩にプレゼントしよう。			
	(2)紹介文モデルを音読し、内容の確認をする。【一斉、個人】	●今まで読んできた内容が頭にあるから、ある程度理解できるな。 ○マララさんに関して、どのような内容が書かれているかな。 ●出身地、国連でのスピーチ、銃撃されたこと等 ○マララさんの他に、どのようなことが盛り込まれていますか。 ●あいさつ、名前、質問等。	○書かれている内容を理解する。 ○生徒の声を整理しながら、紹介文のモデル像を把握する。 ○後に生徒が紹介文を書く際に取り組みやすいよう、ウェビングの手順を確認しながら板書する。	紹介文モデル
	4 マララさんに関する紹介文を書く。 (1)マララさんに関する情報を整理する。【個人】 (2)ウェビングでまとめた情報を基に、紹介文を書く。【個人】	○ウェビングをやってみましょう。 ●つながりを考えるのは難しいな。 ○自分が書ける、平易な英語で書こう。	○紹介文の内容を考える際、教科書を参照してもよいこととする。ただし、英文を書くのではなく、キーワードのみの記入とする。 ○整理した情報を基に、マララさんに関する紹介文を書く。【自力解決】	写真
	★評価基準（B基準）マララさんの紹介文を、自分の気持ちや質問を交えて5文以上書けている。（シート）			
	5 意見を交流する。 ・グループで回し読みをし、よりよい表現方法や構成を共有する。【グループ】	○グループで回し読みをして、友達のよいところを学びましょう。 ●この表現は使えるな。	○他者の表現方法や構成を参考に、よりよい紹介文のモデルを模索する。【共同解決】	ワークシート 教科書 辞書
終末 3分	4 学びを振り返る。 ・本時の学習内容をまとめる。【個人】	○次は清書し、全体で共有します。	○ワークシートを回収する。	

【評価基準 B】 マララさんの紹介文を、自分の気持ちや質問を交えて5文以上書けている。
〈 外国語表現の能力 〉